

# 奈良国立文化財研究所要綱

## I 事業概要

### 1 研究普及事業

#### 公開講演会

- (1) 1986年5月17日  
坪井清足退官記念講演会  
「埋蔵文化財発掘30年」
- (2) 1986年5月24日 第59回公開講演会  
「古代における墨書人面土器祭祀」巽 淳一郎  
「古代都城条坊制度の再検討」 井上 和人
- (3) 1986年10月26日 特別公開講演会  
「呉の“鏡師陳世”製作の神獸鏡を考える」  
王 仲殊

#### 現地説明会

- (1) 1986年4月19日 藤原宮第47次発掘調査〈見学会〉
- (2) 1986年6月21日 平城宮跡第172次発掘調査  
(内裏東方官衙・東大溝) 館野 和己
- (3) 1986年7月19日 藤原宮第49次発掘調査  
西口 寿生
- (4) 1986年8月23日 平城宮跡第173次発掘調査  
(推定第二次朝堂院・東第二堂) 寺崎 保広

- (5) 1986年10月25日 平城宮跡第172次北発掘調査  
(東大溝) 小林 謙一
- (6) 1986年11月8日 石神遺跡第6次発掘調査  
清水 真一
- (7) 1986年11月22日 藤原宮第50次発掘調査  
山本 忠尚
- (8) 1986年12月13日 平城京右京八条一坊十四坪  
発掘調査 本中 真
- (9) 1987年3月18日 史跡頭塔発掘調査  
高瀬 要一
- (10) 1987年3月28日 平城宮跡第178次発掘調査  
(平城京左京三条二坊七坪) 岩永 省三

#### 平城宮跡資料館・覆屋公開

- (1) 春季特別公開 1986年4月26日～5月5日  
見学者 11,600
- 秋季特別公開 1986年10月25日～11月3日  
見学者 8,832
- (2) 見学者数

区分	資料館	覆屋	計
1986年	61,927	60,617	122,544
累計	782,487	1,086,243	1,868,730

資料館は1970年度、覆屋は1963年度以降の累計

### 2 1986年文部省科学研究費補助金による研究

種別	研究課題	研究代表者	交付額
特別推進研究(2)	古年輪変動データの分析による考古歴史研究方法の確立	田中 琢	10,000千円
一般研究(A)	日本出土青銅器の材質分析による編年研究	町田 章	3,700
一般研究(B)	考古学史の基礎的資料収集ならびに研究	佐原 真	1,200
〃	日本考古学・古代史用語を外国語化し、その成果を国際的に広めるための基礎的研究	山本 忠尚	3,000
〃	発掘遺構による日本中世住居の復原的研究	宮本 長二郎	1,300
一般研究(C)	中世の食器構成の崩壊に関する基礎的研究	川越 俊一	1,200
〃	西日本における瓦質土器の集成的研究	菅原 正明	1,000
〃	奈良時代土器生産変容過程の研究—律令官衙・集落・窯—	千田 剛道	600
奨励研究(A)	律令制下における交通の研究—関を中心—	館野 和己	800
〃	日本古代における道具瓦の総合的研究	岩本 正二	900
〃	方格規矩四神鏡の研究—その編年と意義—	立木 修	900
〃	和銅開珎に関する考古学的研究	松村 恵司	1,000
試験研究(1)	発掘遺構を対象とする簡易写真測量法の開発研究	伊東 太作	1,800
特定研究(1)	山田寺を中心とする出土木材の保存法の改良と考古学的建築史学的研究	岡田 英男	1,800
研究成果刊行費 (データベース)	航空写真情報	伊東 太作	6,870
計	15件		36,070

### 3 飛鳥資料館の運営

#### 展 示

第一展示室 常設展示

第二展示室 春期特別展示「飛鳥寺」

(1986.3.19～1986.5.20)

秋期特別展示「飛鳥の石造物」

(1986.10.1～1986.11.24)

#### 普 及

前年同様インフォメーションルームで観覧者の質問に応じている。また、特別展示の図録として「飛鳥の石造物」を刊行した。

入館者数(1986.4.1～1987.3.31閉館日数317日)

	普通観覧	団体観覧	有 料	無 料	合 計
一 般	51,734	25,851	220,104	13,401	233,505
高・大生	14,314	30,310			
小・中生	16,695	81,200			
計	82,743	137,361			

#### 陳列品購入

車石 2 個

高松塚古墳壁画

男性衣服復原 1 着

### 4 埋蔵文化財センターの研修・指導

研 修 埋蔵文化財の保護に資することを目的として主に地方公共団体の埋蔵文化財保護行政担当者を対象に次の研修を実施した。

- (1) 昭和61年度埋蔵文化財発掘技術者特別研修  
(縄紋施紋法調査課程)  
1986年4月17日～4月23日(参加者21名)
- (2) 昭和61年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修  
(金属保存課程)  
1986年5月7日～5月23日(参加者12名)
- (3) 昭和61年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修  
(遺跡保存整備課程)  
1986年6月5日～6月24日(参加者18名)
- (4) 昭和61年度埋蔵文化財発掘技術者一般研修  
(一般課程)  
1986年7月2日～8月9日(参加者24名)
- (5) 昭和61年度埋蔵文化財担当事務職員特別研修  
(埋蔵文化財基礎課程)  
1986年8月19日～8月28日(参加者33名)
- (6) 昭和61年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修  
(遺跡測量課程)

1986年9月4日～9月30日(参加者20名)

- (7) 昭和61年度埋蔵文化財発掘技術者特別研修  
(土層転写課程)

1986年10月7日～10月11日(参加者21名)

- (8) 昭和61年度埋蔵文化財発掘技術者特別研修  
(遺物取り上げ法課程)

1986年10月13日～10月16日(参加者29名)

- (9) 昭和61年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修  
(遺構探査・予備調査課程)

1986年10月24日～11月18日(参加者11名)

- (10) 昭和61年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修  
(歴史時代遺跡調査課程)

1986年11月27日～12月19日(参加者27名)

- (11) 昭和61年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修  
(環境考古課程)

1987年1月13日～2月6日(参加者14名)

- (12) 昭和61年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修  
(埋蔵文化財情報課程)

1987年2月17日～3月3日(参加者25名)

- (13) 昭和61年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修  
(石器調査課程)

1987年3月13日～3月24日(参加者20名)

#### 発掘調査・整備・探査指導

(北海道)開陽丸遺跡, 手宮洞窟, 美利河遺跡, 忍路土場遺跡, 津軽氏城跡, 津軽海峡線建設工事新道4遺跡, (岩手県)国見山廃寺跡, 盛岡城跡, 毛越寺庭園, (秋田県)弘田柵跡, 東北横断自動車道秋田線上の山Ⅱ遺跡, (山形県)押出遺跡, (福島県)薬師堂石仏, 慧日寺跡, 大戸古窯跡群, 関和久上町遺跡, 久世原遺跡, (茨城県)神野向遺跡, (栃木県)足利学校跡, 下野国分寺跡北門, 下野国府跡, (群馬県)宇通遺跡, 上野国分寺跡, 矢ノ浦遺跡, 日高遺跡, (東京都)御殿前遺跡, (富山県)じょうべのま遺跡, (石川県)鳥越城跡附二曲城跡, 石動山東林院跡庭園, (福井県)加戸下屋敷遺跡, 永平寺町古墳石室, 一乗谷朝倉氏遺跡城戸口土壘・石垣, (山梨県)寺本廃寺跡, (長野県)森將軍塚古墳, 松本城, 信濃国府跡, (岐阜県)高山城跡, 岐阜城跡千疊敷, 馬見塚遺跡, (静岡県)勝間田城跡, 横須賀城跡, 葦山反射炉, (愛知県)三河国分寺跡, 下津城跡, (三重県)夏見廃寺跡, 本浦遺跡群, 多気町瓦窯跡, 一般国道1号亀山バイパス遺跡, 縄生廃寺, (滋賀県)来照寺庭園, 理覚院庭園, 作谷窯跡, 延暦寺

西塔遺跡、タタラ谷遺跡、(京都府)高麗寺跡、銀閣寺お茶の井庭園、山城国分寺跡、大覚寺大沢池、物集女車塚古墳、志高遺跡、中の谷窯跡、尊勝寺跡、(大阪府)難波宮跡、津堂城山古墳、茶臼山古墳、三ツ塚古墳、瓜破遺跡、(兵庫県)感状山城跡、玉津・田中遺跡、辻井遺跡、大山荘園、西脇古墳群、長尾遺跡、丘舞線No 9 遺跡、天王山古墳群、瀧ノ内経塚、小壺古墳、長尾沖田遺跡、但馬国分寺跡、鶴荘園地域、魚住泊跡、篠山城二の丸石垣、新宮・宮内遺跡、淡路国分寺跡、五色塚古墳、竜門寺遺跡、明石城武家屋敷跡、桜ヶ丘銅鐸・銅戈、但馬国府跡、三田市古城窯跡、篠山城上小性町武家屋敷跡(奈良県)藤ノ木古墳、飛鳥水落遺跡、(鳥取県)上原南遺跡、上原遺跡、戸島遺跡、(鳥根県)西川津遺跡、出雲国府跡、山代郷正倉跡、(岡山県)南方釜田遺跡、津山城跡、(広島県)草戸千軒町遺跡、寄倉岩陰遺跡、竹森大仙山遺跡、三ツ城古墳、(山口県)大内氏遺跡、土井ヶ浜遺跡、延行条里遺跡、綾羅木郷遺跡、(徳島県)若杉山遺跡、徳島城跡、(香川県)讃岐国分寺跡、沙弥ナカダ浜遺跡、(愛媛県)松山市道千舟・高岡線地域、(福岡県)王塚古墳、大野城跡太宰府口門跡、比恵遺跡、井相田遺跡、宇木汲田遺跡、(佐賀県)塩田町遺跡、大黒町遺跡、(熊本県)宇土城跡、塚原古墳群、(大分県)大分元町石仏、宇佐風土記の丘、弥勤寺旧境内、豊後国分寺跡、(宮崎県)蓮ヶ池横穴群、宮崎学園都市遺跡、北原牧地区遺跡群、(鹿児島県)指宿橋牟礼川遺物包含地、(沖縄県)今帰仁城跡、

首里城跡、糸数城跡、フルスト原遺跡、湧田古窯跡、新里村遺跡

#### 埋蔵文化財ニュース刊行

- 第55号 コンピュータによる発掘調査記録法
- 第56号 1985年度埋蔵文化財関係統計資料
- 第57号 昭和59年度に報告された遺跡の時代別件数

#### 5 その他

##### 委員会等

第13回飛鳥資料館運営協議会

1986年5月21日 於 飛鳥資料館

平城・飛鳥藤原宮跡調査整備指導委員会

1986年6月6日・7日

於 平城宮跡資料館講堂

平城宮跡朱雀門調査研究会

1986年11月12日

於 小会議室

##### 外国出張

木下正史 古代水時計発達史の研究のため連合王国、フランス、イタリアへ出張

1986年10月2日～同年11月28日

##### 協力事業等

文化庁では1971年度から特別史跡藤原宮跡の国有化を進めており、1972年度から当研究所が文化庁から支出委任を受けて買取事務を担当しているが、1986年度の状況は下記のとおりである。

区分	面積	金額
1986年度	5,927.48	251,830,210
国有地合計	299,570.19	5,598,120,796

#### 研修員一覧表

氏名	所属	受入れ期間	受入れ室	研修指導内容
加古千恵子	兵庫県教委主任	1986.5.6～1987.3.28	遺物処理研究室	埋蔵文化財の保存処理
山田芳昭	三重県教委県外研修生 (桑名市立城南小学校教諭)	1986.7.1～1986.9.30	平城宮跡発掘調査部	埋蔵文化財の発掘調査および保存について
千種浩	神戸市教委文化財課埋蔵文化財係	1986.9.1～1987.3.31	遺物処理研究室	遺跡出土遺物の遺物保存処理
広岡貞之	三重県教委県外研修生 (名張市立すずらん台小学校教諭)	1986.10.1～1986.12.28	藤原宮跡発掘調査部	同上
森岡常厚	同上 (津市立西橋内中学校教諭)		同上	同上
斎藤賢一	瀬戸内海歴史民俗資料館専門職員	1986.11.10～1986.11.22	遺物処理研究室	金属遺物の保存について
李相洙	国立中央博物館保存科学室担当官	1986.11.26～1986.12.25	同上	保存科学研究
永江寿夫	福井県上中町教委非常勤職員	1986.12.1～1987.3.20	平城宮跡発掘調査部	埋蔵文化財発掘調査の実務
朴胤遠	慶北大学校博物館保存処理室業務助教	1987.1.9～1987.6.19	遺物処理研究室	埋蔵土器の保存科学処理方法

## Ⅱ 図書及び資料

図書95,821冊

(1987.3.30)

区分	種別	購入	寄贈	計
1986	和漢書	1,259	4,289	5,548
	洋書	140	41	181
累計	和漢書	42,050	47,682	89,732
	洋書	5,176	913	6,089

写真 333,595点 (1986年度末現在)

## Ⅲ 研究成果刊行物

### 1 1986年度刊行物

名	称
学報	第45冊 薬師寺発掘調査報告
図録	第16冊 飛鳥の石造物
報告書等	昭和61年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報 飛鳥・藤原宮発掘調査概報告17 平城宮発掘調査出土木簡概報19 平城宮左京四条二坊一坪発掘調査報告 平城宮跡資料館図録 集落町並保存関係条例の概要(Ⅱ) 遺跡整備資料V(宮跡・官衙遺跡) 遺跡整備資料VI(庭園・その他の遺跡)

### 2 前年度までの刊行物

奈良国立文化財研究所学報

年度	名	称
1954	第1冊	仏師運慶の研究
	第2冊	修学院離宮の復原的研究
1955	第3冊	文化史論叢
1956	第4冊	奈良時代僧房の研究
1957	第5冊	飛鳥寺発掘調査報告
1958	第6冊	中世庭園文化史
	第7冊	興福寺食堂発掘調査報告
1959	第8冊	文化史論叢Ⅱ
	第9冊	川原寺発掘調査報告
1960	第10冊	平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告
1961	第11冊	院家建築の研究
1962	第12冊	巧匠安阿弥陀仏快慶
	第13冊	寝殿造系庭園の立地的考察
	第14冊	レースと金亀舍利塔に関する研究
	第15冊	平城宮発掘調査報告Ⅱ 官衙地域の調査
1963	第16冊	平城宮発掘調査報告Ⅲ 内裏地域の調査
1965	第17冊	平城宮発掘調査報告Ⅳ 官衙地域の調査
	第18冊	小掘遠州の作事
1967	第19冊	藤原氏の氏寺とその院家
1969	第20冊	名物製の成立
1971	第21冊	研究論集Ⅰ
1973	第22冊	研究論集Ⅱ
1974	第23冊	平城宮発掘調査報告Ⅵ 平城京左京一条三坊の調査
	第24冊	高山一町並等報告一

1975	第25冊	平城京左京三条二坊
	第26冊	平城宮発掘調査報告Ⅶ
	第27冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ
	第28冊	研究論集Ⅲ
	第29冊	木曾奈良井一町並調査報告一
1976	第30冊	五条一町並調査の記録一
1977	第31冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ
	第32冊	研究論集Ⅳ
	第33冊	イタリア中部の山岳集落における民家調査報告
	第34冊	平城宮発掘調査報告Ⅸ
1978	第35冊	研究論集Ⅴ
	第36冊	平城宮整備調査報告Ⅰ
1979	第37冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ
	第38冊	研究論集Ⅵ
1980	第39冊	平城宮発掘調査報告Ⅹ
1981	第40冊	平城宮発掘調査報告ⅪⅠ
1984	第41冊	研究論集Ⅶ
	第42冊	平城宮発掘調査報告ⅩⅡ
	第43条	日本における近世民家(農家)の系統的発展
1985	第44冊	平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告

### 奈良国立文化財研究所史料

年度	名	称
1954	第1冊	南無阿弥陀仏作善集(複製)
1955	第2冊	西大寺叔尊伝記集成
1963	第3冊	仁和寺史料 寺誌編1
1964	第4冊	俊乗坊重源史料集成
1966	第5冊	平城宮木簡1 図版
1967	第6冊	仁和寺史料 寺誌編2
1969	第5冊	平城宮木簡1 解説(別冊)
1970	第7冊	唐招提寺史料1
1974	第8冊	平城宮木簡2 図版・解説
	第9冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅰ
1975	第10冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅱ
1976	第11冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅲ
1977	第12冊	藤原宮木簡1 図版・解説
	第13冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅳ
1978	第14冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅴ
	第15冊	東大寺文書目録第1巻
1979	第16冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅵ
	第17冊	平城宮木簡3 図版・解説
	第18冊	藤原宮木簡2 図版・解説
	第19冊	東大寺文書目録第2巻
1980	第20冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅶ
	第21冊	東大寺文書目録第3巻
1981	第22冊	七大寺巡礼私記
	第23冊	東大寺文書目録第4巻
1982	第24冊	東大寺文書目録第5巻
	第25冊	平城宮出土墨書土器集成Ⅰ
1983	第26冊	東大寺文書目録第6巻
1984	第27冊	木器集成図録一近畿古代篇一
1985	第28冊	平城宮木簡四 図版・解説
	第29冊	興福寺典籍文書目録第一巻

奈良国立文化財研究所基準資料

年度	名	称
1973	第1冊 瓦編1	解説
1974	第2冊 瓦編2	解説
1975	第3冊 瓦編3	
1976	第4冊 瓦編4	
	第5冊 瓦編5	
1978	第6冊 瓦編6	
1979	第7冊 瓦編7	
1980	第8冊 瓦編8	
1983	第9冊 瓦編9	

飛鳥資料館図録

年度	名	称
1976	第1冊 飛鳥白鳳の在名金銅仏	
	第2冊 飛鳥白鳳の在名金銅仏 銘文篇	
1977	第3冊 日本古代の墓誌	
1978	第4冊 日本古代の墓誌 銘文篇	
	第5冊 古代の誕生仏	
1979	第6冊 飛鳥時代の古墳—高松塚とその周辺—	
1980	第7冊 日本古代の鴟尾	
1981	第8冊 山田寺展	
1982	第9冊 高松塚拾年	
1983	第10冊 渡来人の寺—松隅寺と坂田寺—	
	第11冊 飛鳥の水時計	
	第12冊 小建築の世界—埴輪から瓦塔まで—	
1984	第13冊 藤原宮—半世紀にわたる調査と研究—	
1985	第14冊 日本と韓国の塑像	
	第15冊 飛鳥寺	

IV 定員

区分	指定職	行政職(一)	行政職(二)	研究職	計
1986年度	1	22	4	64	91
1987年度	1	23	4	63	91

V 予算 (1986年度)

人件費	527,685千円
運営費	694,903
事業管理	4,465
一般研究	56,292
特別研究	3,081
発掘調査	453,042
宮跡整備管理	55,828
飛鳥資料館運営	49,175
埋蔵文化財センター運営	43,183
新庁舎維持管理等経費	29,837
施設費	312,387
施設整備費	25,000
平城宮跡等整備費	279,400
不動産購入費	0
各所修繕費	7,987
計	1,534,975

VI 施設

土地

奈良国立文化財研究所所管	47,889㎡
本庁舎	8,860㎡
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	20,514㎡
飛鳥資料館	17,092㎡
郡山宿舎(二)	80㎡
飛鳥資料館宿舎	1,343㎡
文化庁所管(関係分)	1,376,486㎡
平城宮跡地区	1,071,875㎡
藤原宮跡地区	29,570㎡
飛鳥稲淵宮殿跡地区	5,041㎡

建物

1. 庁舎 23,865㎡

区分	本庁舎	平城	藤原	飛鳥資料館	藤原宮跡	計
	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡
事務室	568	44	304	90		1,006
研究室	1,419		274	77		1,770
資料・図書室	1,021		36	36		1,093
会議室	338		58	42		438
講堂		384		89		473
展示室		844		648		1,492
写真室	79	256	87	64		486
覆屋・展示棟		1,686				1,686
車庫	84	200	259	94		637
倉庫・収蔵庫	123	5,111	2,144	480		7,858
研修棟	1,416					1,416
その他	1,745	2,549	118	1,062	36	5,510
計	6,793	11,074	3,280	2,682	36	23,865

2. 宿舎等	591㎡
重要文化財旧米谷家住宅	213㎡
郡山宿舎(一), (二)	153㎡
飛鳥資料館宿舎	225㎡

主要工事

千円

(1) 施設設備費

平城宮跡資料館電気改修工事	8,000
平城宮跡資料館空気調和改修その他工事	17,000

(2) 平城宮跡地等整備費

平城宮跡資料館改修工事	62,500
平城宮跡東方宮衙北面築地及び門復原工事	29,000

平城宮跡環境整備昭和61年度第Ⅰ期工事	130,000
---------------------	---------

平城宮跡環境整備昭和61年度第Ⅱ期工事	23,000
---------------------	--------

平城宮跡東大溝復原工事	6,700
-------------	-------

藤原宮跡説明板等設置工事	8,520
--------------	-------

藤原宮跡樹木補植工事 2,100

Ⅶ 人事異動

(1986.4.1~1987.3.31)

4月1日 奈良国立文化財研究所長に昇任  
鈴木 嘉吉

庶務部庶務課課長補佐に昇任  
筋 忠男

平城宮跡発掘調査部長に昇任  
町田 章

平城宮跡発掘調査部考古第一調査室長に昇任  
金子 裕之

平城宮跡発掘調査部考古第三調査室長に昇任  
毛利光俊彦

平城宮跡発掘調査部遺構調査室長に昇任  
上野 邦一

飛鳥資料館庶務室長に昇任  
織田 健蔵

平城宮跡発掘調査部考古第三調査室に転任  
佐川 正敏

飛鳥藤原宮跡発掘調査部長に配置換  
岡田 英男

建造物研究室長に配置換 宮本長二郎

飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第一調査室長に配置換  
黒崎 直

飛鳥藤原宮跡発掘調査部遺構調査室長に配置換  
山本 忠尚

埋蔵文化財センター集落遺跡研究室長に配置換  
工楽 善通

飛鳥資料館主任研究官に配置換  
岩本 圭輔

平城宮跡発掘調査部考古第一調査室に配置換  
井上 和人

飛鳥藤原宮跡発掘調査部史料調査室に配置換  
深澤 芳樹

飛鳥資料館庶務室に配置換  
刀谷 敏博

埋蔵文化財センター教務室に配置換  
松本 正典

文部技官（庶務部会計課）に採用  
小園 秀彦

文部技官（平城宮跡発掘調査部考古第二調査室）に採用  
玉田 芳英

事務補佐員（庶務部庶務課）に採用

守山 月子

技能補佐員（飛鳥藤原宮跡発掘調査部）に採用  
山本 謙次

研究補佐員（飛鳥藤原宮跡発掘調査部）に採用  
高橋 公一

事務補佐員（埋蔵文化財センター教務室）に所属換  
岩永 恵子

事務補佐員（庶務部会計課）に所属換  
柴山 薫

文化庁文化財保護部記念物課主任文化財調査官に配置換  
狩野 久

文化庁文化財保護部建造物課文化財調査官に配置換  
村上 詔一

文化庁文化財保護部記念物課文化財調査官に配置換  
山崎 信二

和歌山大学学生部厚生課長に転任  
日高 参夫

京都大学医学部に転任  
吉村 義徳

京都大学化学研究所に転任  
浅井 正彦

4月20日 辞職  
山本 謙次

5月1日 庶務部会計課に転任  
岡本 安司

7月1日 平城宮跡発掘調査部主任研究官に昇任  
巽 淳一郎

平城宮跡発掘調査部主任研究官に昇任  
小林 謙一

飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官に昇任  
土肥 孝

埋蔵文化財センター研究指導部主任研究官に昇任  
光谷 拓実

飛鳥資料館学芸室に配置換  
杉山 洋

10月1日 庶務部庶務課庶務係長に昇任  
奥井 良治

庶務部庶務課に転任  
石田 義則

庶務部会計課専門職員に併任  
井元 正澄

大阪大学医療技術短期大学部庶務係長に転任  
田部 信重

奈良国立博物館管理課人事主任に転任  
西 徹

12月31日 辞職  
藤本きよえ

1月1日 事務補佐員（庶務部会計課）に採用  
高田 操子

1月16日 庶務部会計課課長補佐に昇任  
益田 朗  
京都大学経理部管財課課長補佐に転任  
藤本 進  
3月30日 辞職 前川 重子  
小寺 誠  
3月31日 辞職 岡田 英男  
菅原 正明

## Ⅷ 組織規定

### 文部省組織令 抜萃

昭和59年度政令第127号

昭和59年7月1日全部改正

#### 第108条

2 前項に定めるもののほか、文化庁に次の施設等機関を置く。

国立文化財研究所（前後略）

第114条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う機関とする。

2 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

3 国立文化財研究所及びその支所の名称、位置及び内部組織は、文部省令で定める。

### 文部省設置法施行規則 抜萃

昭和28年1月13日文部省令第2号

追加昭和43年6月15日文部省令第20号

昭和45年4月17日文部省令第11号

昭和45年4月12日文部省令第6号

昭和49年4月11日文部省令第10号

昭和50年4月2日文部省令第13号

昭和51年5月10日文部省令第16号

昭和52年4月18日文部省令第10号

昭和53年4月5日文部省令第19号

昭和53年9月9日文部省令第33号

昭和55年4月5日文部省令第14号

昭和55年6月25日文部省令第23号

昭和58年10月1日文部省令第25号

昭和59年7月1日文部省令第37号

#### 第5章 文化庁の施設等機関

##### 第4節 国立文化財研究所

第116条の9 国立文化財研究所の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東京都台東区
奈良国立文化財研究所	奈良県奈良市

#### 第2款 奈良国立文化財研究所

（所長）

第123条 奈良国立文化財研究所に、所長を置く。

2 所長は所務を掌理する。

（内部組織）

第124条 奈良国立文化財研究所に、庶務部、建造物研究室及び歴史研究室並びに平城宮跡発掘調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部を置く。

2 前項に定めるもののほか、奈良国立文化財研究所に、飛鳥資料館及び埋蔵文化財センターを置く。

（庶務部の分課及び事務）

第125条 庶務部に、次の二課を置く。

一 庶務課

二 会計課

2 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

一 職員の人事に関する事務を処理すること。

二 職員の福利厚生に関する事務を処理すること。

三 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。

四 この研究所の所掌事務に関し、連絡調整すること。

五 この研究所の所掌に係る遺構及び遺物の保全のための警備に関すること。

六 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。

3 会計課においては、次の事務をつかさどる。

一 予算に関する事務を処理すること。

二 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。

三 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。

四 庁舎及び設備の維持、管理に関する事務を処理すること。

五 庁内の取締りに関すること。

（建造物研究室等の事務）

第127条 建造物研究室においては、建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

- 2 歴史研究室においては、考古及び史跡並びに歴史資料に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

(平城宮跡発掘調査部の六室及び事務)

第128条 平城宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室及び史料調査室を置く。

- 2 前項の各室においては、平城宮跡に関し、次項から第6項までに定める事務を処理するほか、その発掘を行う。
- 3 考古第一調査室、考古第二調査室及び考古第三調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物(木簡を除く)の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 5 計測修景調査室においては、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 6 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部の四室及び事務)

第129条 飛鳥藤原宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室及び史料調査室を置く。

- 2 前項の各室においては、藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡に関し、次項から第5項までに定める事務を処理するほか、その発掘を行う。
- 3 考古第一調査室及び考古第二調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物(木簡を除く)の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 5 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

(飛鳥資料館)

第130条 飛鳥資料館においては、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、国民の理解を深め

るため、この地域に関する考古資料、歴史資料その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれらに関する調査研究及び事業を行う。

(飛鳥資料館の館長)

第131条 飛鳥資料館に館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理する。

(飛鳥資料館の二室及び事務)

第132条 飛鳥資料館に、庶務室及び学芸室を置く。

- 2 庶務室においては、飛鳥資料館の庶務、会計等に関する事務を処理する。

- 3 学芸室においては、次の事項をつかさどる。

- 一 飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻、典籍、古文書その他の資料の収集、保管、展示、模写、模造、写真の作成、調査研究及び解説を行うこと。
- 二 飛鳥地域に関する図書、写真その他の資料の収集、整理、保管、展示、閲覧及び調査研究を行うこと。

- 三 飛鳥資料館の事業に関する出版物の編集及び刊行並びに普及宣伝を行うこと。

(埋蔵文化財センター)

第133条 埋蔵文化財センターにおいては、次の事務をつかさどる。

- 一 埋蔵文化財に関し、調査研究及びその結果の公表を行うこと。

- 二 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の埋蔵文化財調査関係職員その他の関係者に対して、専門的、技術的な研修を行うこと。

- 三 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導及び助言を行うこと。

- 四 埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管及び調査研究を行い、並びに地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、その利用に供すること。

(埋蔵文化財センターの長)

第134条 埋蔵文化財センターに長を置く。

- 2 前項の長は、埋蔵文化財センターの事務を掌理する。

(埋蔵文化財センターの内部組織)



第135条 埋蔵文化財センターに、教務室、研究指導部及び情報資料室を置く。

(教務室の事務)

第136条 教務室においては、研修の実施に関する事務を処理するほか、埋蔵文化財センターの庶務に関する事務をつかさどる。

(研究指導部の六室及び事務)

第137条 研究指導部に、考古計画研究室、集落遺跡研究室、発掘技術研究室、遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室を置く。

2 考古計画研究室においては、第133条第1号から第3号までに掲げる事務(他の室の所掌に属するものを除く)をつかさどる。

3 集落遺跡研究室においては、集落遺跡に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務(発掘技術研究室、遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室の所掌に属するものを除

く)をつかさどる。

4 発掘技術研究室においては、遺跡の発掘技術に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

5 遺物処理研究室においては、遺物の処理に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

6 測量研究室においては、埋蔵文化財の測量に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

7 保存工学研究室においては、遺跡の保存整備に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

(情報資料室の事務)

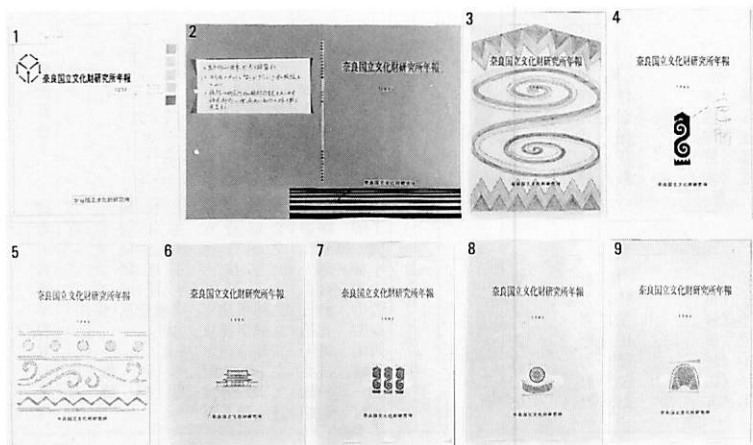
第138条 情報資料室においては、第133条第4号に掲げる事務をつかさどる。

### 年報表紙デザインの改訂について

今年度の年報から表紙デザインが改まりました。

これまで永らく表紙を飾ってきた春日野の旧本庁舎が奈良国立博物館に移管され、当研究所のシンボルにふさわしくなくなったことが今回の改訂の契機です。そこで、これにかわる案を広く研究所内から募る方法として、所内デザインコンペを行いました。最終的に9案の応募作があり(写真)、これを研究所職員全員で投票するという民主的(?)な方法で判定したところ、結果は表のごとく、朱雀門をカットとする案が一等となりました。

一等となった原案をもとに、若干、文字・カットの配置、大きさなどを修正し、今回の表紙ができあがり、また、表紙の用紙もこれまでのミューズコットンからより耐久性のあるマーメイドという紙に変更しました。



1	8票
2	19票
3	8票
4	7票
5	18票
6	29票
7	8票
8	0票
9	7票
無回答	4票
計	108票

職員 (1987年7月1日現在)

所属	氏名	官職	担当
	鈴木 嘉吉	文部技官 所長	
庶務課	伊藤 省三	文部事務官 部長	
	赤羽 一樹	文部事務官 課長	平城事務
	石田 健三	文部事務官 課長	事務
	西田 義則	文部事務官 課長	事務
	奥井 良治	文部事務官 課長	事務
	石田 光治	文部事務官 課長	事務
	岡田 博光	文部事務官 課長	事務
	八幡 扶桑	文部技官 課長	事務
	六戸 雅子	事務補佐員	事務
	港 悦子	事務補佐員	事務
	福本 良子	事務補佐員	事務
	新宮 恵子	事務補佐員	事務
庶務課	中川 宣代	事務補佐員	事務
	中垣 上睦	事務補佐員	事務
	中川 睦美	事務補佐員	事務
	石川 千恵子	事務補佐員	事務
	小川 照夫	文部事務官 課長	庶務課
	益田 博史	文部事務官 課長	庶務課
	川合 康正	文部事務官 課長	庶務課
	渡辺 澄治	文部事務官 課長	庶務課
	元井 雅基	文部事務官 課長	庶務課
	楠坂 雅文	文部事務官 課長	庶務課
	小林 敬子	文部事務官 課長	庶務課
	本村 京薫	文部事務官 課長	庶務課
部計課	山村 博美	文部事務官 課長	庶務課
	西岡 安司	文部事務官 課長	庶務課
	飯田 信男	文部事務官 課長	庶務課
	永田 季和	文部事務官 課長	庶務課
	中井 元正	文部事務官 課長	庶務課
	小園 秀和	文部事務官 課長	庶務課
	大西 和子	文部事務官 課長	庶務課
	宮本 長二	文部技官 室長	建築
	本松 修敏	文部技官 室長	建築
	島田 敏常	文部技官 室長	建築
	山岸 真淡	文部技官 室長	建築
	建造物研究室	本中 田	文部技官 室長
本中 田		文部技官 室長	建築
本中 田		文部技官 室長	建築
本中 田		文部技官 室長	建築
本中 田		文部技官 室長	建築
本中 田		文部技官 室長	建築
本中 田		文部技官 室長	建築
本中 田		文部技官 室長	建築
本中 田		文部技官 室長	建築
本中 田		文部技官 室長	建築
本中 田		文部技官 室長	建築
歴史研究室		本中 田	文部技官 室長
	本中 田	文部技官 室長	建築
	本中 田	文部技官 室長	建築
	本中 田	文部技官 室長	建築
	本中 田	文部技官 室長	建築
	本中 田	文部技官 室長	建築
	本中 田	文部技官 室長	建築
	本中 田	文部技官 室長	建築
	本中 田	文部技官 室長	建築
	本中 田	文部技官 室長	建築
	本中 田	文部技官 室長	建築

所属	氏名	官職	担当
	町田 章	文部技官 部長	
考古第一調査室	金子 裕和	文部技官 室長	考古
	上村 和司	文部技官 室長	考古
	岩永 文三	文部技官 室長	考古
	岩永 文三	文部技官 室長	考古
	岩永 文三	文部技官 室長	考古
	岩永 文三	文部技官 室長	考古
	岩永 文三	文部技官 室長	考古
	岩永 文三	文部技官 室長	考古
	岩永 文三	文部技官 室長	考古
	岩永 文三	文部技官 室長	考古
	岩永 文三	文部技官 室長	考古
	考古第二調査室	田邊 征夫	文部技官 室長
玉田 芳剛		文部技官 室長	考古
千田 淳一郎		文部技官 室長	考古
巽 淳一郎		文部技官 室長	考古
巽 淳一郎		文部技官 室長	考古
巽 淳一郎		文部技官 室長	考古
巽 淳一郎		文部技官 室長	考古
巽 淳一郎		文部技官 室長	考古
巽 淳一郎		文部技官 室長	考古
巽 淳一郎		文部技官 室長	考古
巽 淳一郎		文部技官 室長	考古
考古第三調査室		毛利 彦浩	文部技官 室長
	花谷 正一	文部技官 室長	考古
	佐川 謙一	文部技官 室長	考古
	小林 謙一	文部技官 室長	考古
	小林 謙一	文部技官 室長	考古
	小林 謙一	文部技官 室長	考古
	小林 謙一	文部技官 室長	考古
	小林 謙一	文部技官 室長	考古
	小林 謙一	文部技官 室長	考古
	小林 謙一	文部技官 室長	考古
	小林 謙一	文部技官 室長	考古
	遺構調査室	上野 邦一	文部技官 室長
野田 敏男		文部技官 室長	建築
島田 滋自		文部技官 室長	建築
浅川 修		文部技官 室長	建築
浅川 修		文部技官 室長	建築
浅川 修		文部技官 室長	建築
浅川 修		文部技官 室長	建築
浅川 修		文部技官 室長	建築
浅川 修		文部技官 室長	建築
浅川 修		文部技官 室長	建築
浅川 修		文部技官 室長	建築
掘計課		高本 要一	文部技官 室長
	小野 健吉	文部技官 室長	建築
	村岡 正	文部技官 室長	建築
	村岡 正	文部技官 室長	建築
	村岡 正	文部技官 室長	建築
	村岡 正	文部技官 室長	建築
	村岡 正	文部技官 室長	建築
	村岡 正	文部技官 室長	建築
	村岡 正	文部技官 室長	建築
	村岡 正	文部技官 室長	建築
	村岡 正	文部技官 室長	建築
	史料調査室	村岡 宏	文部技官 室長
橋本 義則		文部技官 室長	建築
寺野 保和		文部技官 室長	建築
野野 和己		文部技官 室長	建築
野野 和己		文部技官 室長	建築
野野 和己		文部技官 室長	建築
野野 和己		文部技官 室長	建築
野野 和己		文部技官 室長	建築
野野 和己		文部技官 室長	建築
野野 和己		文部技官 室長	建築
野野 和己		文部技官 室長	建築
部		見田 啓三	文部技官 室長
	千巽 剛道	文部技官 室長	建築
	小林 謙一	文部技官 室長	建築
	小松 修自	文部技官 室長	建築
	西田 光治	文部技官 室長	建築
	森田 博光	文部技官 室長	建築
	岡田 扶桑	文部技官 室長	建築
	八幡 幹司	文部技官 室長	建築
	佃 吉村	文部技官 室長	建築
	佃 吉村	文部技官 室長	建築
	佃 吉村	文部技官 室長	建築
	佃 吉村	文部技官 室長	建築

所屬	氏名	官職	担当
飛鳥資料館	牛川 喜幸	文部技官部	長
	馬清水 直一	文部技官室	長
	馬深井 真芳	文部技官室	(併任)
	土肥 樹夫	文部技官室	(併任)
	木下 正史	文部技官室	(併任)
	大脇 潔生	文部技官室	(併任)
	山本 尚人	文部技官室	長
	岸越 常俊	文部技官室	(併任)
	藤本 優修	文部技官室	長
	立安 龍太郎	文部技官室	(併任)
	川越 俊一	文部技官室	主任
	安田 太郎	文部技官室	主任
大土 潔孝	文部技官室	主任	
西本 寿生	文部技官室	主任	
大西 治子	文部技官室	主任	
垣谷 洋子	文部技官室	主任	
宮川 幸子	文部技官室	主任	
納野 守学	文部技官室	主任	
高野 公浩	文部技官室	主任	
高角 一行	文部技官室	主任	
鈴木 嘉吉	文部技官室	館長(取扱)	
飛鳥資料館	織田 健夫	文部技官室	長
	西本 清子	文部技官室	長

所屬	氏名	官職	担当
飛鳥資料館	猪熊 兼勝	文部技官室	長
	杉山大谷 洋子	文部技官室	(併任)
飛鳥資料館	照一 圭輔	文部技官室	(併任)
	岩本 圭輔	文部技官室	(併任)
飛鳥資料館	田中 琢	文部技官室	センター長
	東谷 久夫	文部技官室	長
飛鳥資料館	本永 正典	文部技官室	長
	岩 恵子	文部技官室	長
飛鳥資料館	佐原 真	文部技官室	長
	松山 亜史	文部技官室	(併任)
飛鳥資料館	工楽 善通	文部技官室	長
	上原 真人	文部技官室	長
飛鳥資料館	西村 康章	文部技官室	長
	松井 康章	文部技官室	長
飛鳥資料館	田塚 正昭	文部技官室	長
	塚 隆保	文部技官室	(併任)
飛鳥資料館	全東 敬太	文部技官室	(併任)
	伊谷 光松	文部技官室	(併任)
飛鳥資料館	中田 哲雄	文部技官室	長
	田内 哲昭	文部技官室	長
飛鳥資料館	伊東 太敏	文部技官室	主任
	中山 史実	文部技官室	主任
飛鳥資料館	光塚 繁治	文部技官室	主任
	肥田 繁治	文部技官室	主任
飛鳥資料館	岩本 次郎	文部技官室	長
	岩本 次郎	文部技官室	長

